

「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業
障害のある児童生徒を対象としたプログラミング教育
実施モデル 実証事業 メンター講習会

視覚障害者講師が視覚障害生徒へ IT系講義をする時の注意事項

筑波技術大学情報システム学科 小林 真

私自身は晴眼者ですので、私がこのような資料を書くのは適切ではないかもしれませんが。しかし視覚障害の大学生を教育し、各種イベントなどで彼らを観察してきた経験から、少しでもアドバイスになればと思いまとめてみます。「晴眼者講師が視覚障害の生徒へIT系講義をする時の注意事項」を一読したうえで、次の点に留意してみてください。

1. 事前の準備はぬかりなく。

講師側が晴眼者の場合、途中で生徒の名前を確認したり資料を確認したりすることが比較的簡単にできますが、講師が視覚障害者の場合には作業に時間が取られて生徒を待たせてしまったりリズムが狂ったりしてしまう可能性があります。あなたをサポートする晴眼者側スタッフ

は「当日渡せばよい」と思っているかもしれませんが、生徒の氏名・所属や視覚障害の状況など基本的な情報は積極的に集めに行きましょう。

また、コンピュータを使う講義の場合にはその場でトラブル等が起きた場合に対応するのが困難です。予備の機器やいざというときに助けてくれるスタッフの手配など、事前の準備に晴眼者の講師より気を遣う必要があるのでしょう。大変だと思いますが、事前の準備はなにより自分の安心感につながります。特に、常に手に入るわけではありませんが「どの生徒が常に反応を返してくれるのか」といった情報が入手できれば講義をコントロールしやすくなります。

2. 生徒からの反応を自分に分かるかたちにしてもらう。

講師側が晴眼者であれば、「〇〇な人」と生徒に問いかけることは、すなわち拳手を促す意味が隠れていることとなります。しかしそのような問いかけではもし手が拳がったとしても確認することが困難です。また、特に一般校に通っている生徒さんの場合は教える側が見えにくいという状況にあまり慣れていない場合もあります。

「声に出す」ことや「拍手をする」といった生徒側に要求する動作をきちんと伝えるようにしましょう。個別に問いかけることも重要です。最初のポイントとも関連しますが、問いかけるためにはどこに誰が座っているのか、名前は何か、といった情報が不可欠です。

3. 時間管理に気を配る

触覚で時間の管理ができる機器を用意するのがベストですが、音声時計の場合は生徒たちにも聞こえてしまうことがあるので注意しましょう。あまり時間を気にしすぎている様子が伝わってしまうと生徒たちの注意力がそがれてしまう恐れがあります。とはいえ、確認しないわけにもいきません。演習課題などを出すタイミングで「今〇時だから〇分までやってみよう」などと明示的に確認するという流れを作る方法もあります。

4. 晴眼者の補助者を上手に使う

晴眼者の補助者がいる場合は、きちんと事前に打ち合わせて必要なサポートを受けられるようにしておきましょう。例えば前述の時間管理についても、「〇時〇分になったら教えてください」と頼んでおくだけで楽になり

ます。生徒たちの反応も、晴眼者の補助者に語りかけながら把握していく方法もあります。うまく連携して生徒たちを飽きさせないようにしてみてください。

以上、視覚障害者の講師が視覚障害の生徒へIT系講義をする時の注意事項を挙げてみました。なかなか思い通りにならないことも多いと思いますが、ゆっくり生徒とコミュニケーションをして全体の状況把握をするようにしてみてください。